

風水害・土砂災害①



風水害は急激に状況が変化する場合があります。
異変を感じたときは、すぐに避難しましょう。



▼ 風雨による危険度のチェックポイント ※情報収集の方法P17を参照

1時間雨量による雨と被害の目安

※降水量が1時間1mmとなる水の量とは、1m²の面積に、1mm(1ℓ)降ること。

やや強い雨 (10~20mm/h)



ザーザーと降る雨。地面一面に水たまりができます。長く続く場合は注意が必要です。

強い雨 (20~30mm/h)



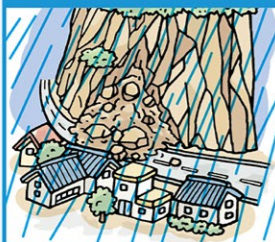
どしゃ降り。側溝や下水があふれ、小川のはん濫、がけ崩れの心配もあります。

激しい雨 (30~50mm/h)



バケツをひっくり返したような激しい雨。道路が川のようになり、規制も行われます。

非常に激しい雨 (50~80mm/h)



滝のように降り、地下に雨水が流れ込む場合や、土砂災害なども発生しやすくなります。

猛烈な雨 (80mm以上/h)



息苦しくなるような圧迫感があり、雨による大規模災害が発生するおそれがあります。

風と被害の目安

※風速は10分間の平均風速です。最大瞬間風速は平均風速の約1.5倍~3倍以上になることがあります。

やや強い風 (10~15m/s)



風に向かって歩きにくくなります。取り付けの不完全な看板やタン板が飛び始めます。

強い風 (15~20m/s)



風に向かって歩けず、転倒する人も出ます。ビニールハウスが壊れるなどの被害が出ます。

非常に強い風 (20~25m/s)



鋼製シャッターの破損や、風で飛ばされた物で窓ガラスが割れるおそれもあります。

非常に強い風 (25~30m/s)



ブロック塀が壊れたり、取り付けの不完全な外装材が飛ぶ危険があります。

猛烈な風 (30m/s以上)



屋根が飛ばされたり、木造住宅の全壊なども発生するようになります。

▼ 土砂災害に備える

一般的に土砂災害は、降雨や融雪で地中の水分が増して地盤が緩み、さらに長雨や強雨が続いたときに発生するとされています。土砂災害の要因となる降雨について、日ごろから注意しておく必要があります。

土石流



山や川の石や土砂が、大雨などにより水と一緒に激しく流れ下る現象。

がけ崩れ



雨や雪どけ水、地震などの影響によって、急激に斜面が崩れ落ちる現象。

地すべり



雨や雪どけ水が地下にしみこみ、断続的に斜面が滑り出す現象。

●土砂災害警戒情報とは

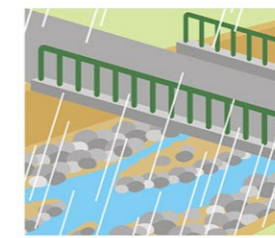
土砂災害警戒情報は、大雨による土砂災害発生の危険度が高まったとき、市町村長が避難指示を発令する際の判断や、住民の自主避難の参考となるよう、釧路総合振興局(釧路建設管理部)と釧路地方気象台が共同で発表する防災情報です。

こんな前ぶれ現象に注意!!

次のような現象を察知した場合は、土砂災害が直後に起こる可能性があります。直ちに周りの人と安全な場所へ避難するとともに、役場・消防署・警察署へ通報してください。



山鳴りがする



雨が降り続けているのに川の水位が下がる



地面にひび割れができる



川が濁り流木が混ざりはじめる

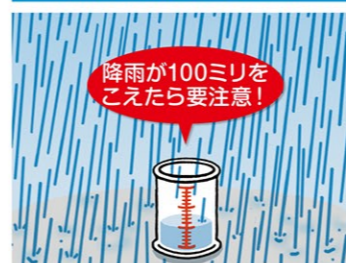


小石がパラパラ落ちてくる



斜面から水がふき出す

雨に注意しましょう



土砂災害の多くは雨が原因で起こります。1時間に20ミリ以上、または降り始めから100ミリ以上の降雨量になったら、十分な注意が必要です。

逃げ方を覚えましょう



土石流は速度が速いため、流れを背にしていたのでは追いつかれてしまいます。土砂の流れる方向に対して直角に逃げるようにしましょう。

避難所を決めておきましょう



日ごろから家族全員で避難所や避難する道順を決めておきましょう。そうすれば、家族が一緒にいないときでも、避難所で落ち合うことができます。

風水害・土砂災害②



風水害が予想される場合は、発表される避難情報等に注意し、危険だと思ったら自主的に早めの避難をしましょう。



避難警戒レベルに注意

風水害の発生が予想される場合、状況に応じて下記の警戒レベルが出されます。地域の方々にも声をかけながら、それぞれの警戒レベルに合わせてしっかりと行動しましょう。

災害の危険度	警戒レベル	住民がとるべき避難行動	避難情報と気象情報	情報発信	
<p>災害発生 全員避難!! 高齢者等は避難!</p>	5	すでに災害が発生または切迫しています 命を守るための最善の行動をとってください	避難情報 緊急安全確保※1 気象情報 大雨特別警報 氾濫発生情報	気象情報 避難情報 町が発令	
	～<警戒レベル4までに必ず避難!>～				
	4	危険な場所から 全員避難してください。 避難所等へ避難しましょう。	避難情報 避難指示 気象情報 土砂災害警戒情報 氾濫危険情報		
	3	危険な場所から 高齢者等は避難しましょう。 他の住民のみなさんは、 避難の準備をしましょう。	避難情報 高齢者等避難※2 気象情報 大雨・洪水警報 氾濫警戒情報		
	2	避難に備え、ハザードマップなどにより 自らの避難行動を確認	気象情報 大雨・洪水 注意報 氾濫注意情報		
1	防災気象情報などの最新情報に注意するなど、 災害への心がまえを高める	気象情報 早期注意情報(警報級の可能性)			

*身の危険を感じたときには警戒レベルに関わらず避難してください。また、必ずしも段階的にレベル1から順に出されるとは限りません。

※1: 市町村が災害の状況を確実に把握できるものではない等の理由から、必ず発令される情報ではありません。

※2: 高齢者等以外の人も必要に応じ、普段の行動を見合わせ始めたり、避難の準備をしたり、危険を感じたら自主的に避難するタイミングです。

警戒レベル4 危険な場所から**全員避難!!** 警戒レベル3「高齢者等避難」が発令された場合は、中標津町からの情報に注意してください。

「分散避難」について

「分散避難」とは、災害時に、避難所以外へ避難することにより、3密を回避し、感染症による二次災害を防ぐための避難方法です。これからは、指定避難所が過密状態になることを防ぐためにも、「避難所」への避難以外に、「親戚・知人宅」「宿泊施設」「在宅避難」などさまざまな避難先に、地域の人たちが分散して避難することが大切です。

- 自分の住んでいる場所が「避難の必要がある場所か」確認する。
- 「親戚や友人、知人の家へ避難が可能か」確認する。
- 「避難所には感染拡大のリスクがある」ことを再認識し、非常持ち出し品・感染防止物品(マスク、消毒液、除菌シート、体温計等)を準備し、安全かつ確実に避難する。

マイ・タイムラインを作ってみよう!

マイ・タイムラインとは?

「マイ・タイムライン」は、台風などの接近によって河川の水位が上昇するときに、自分自身がとる標準的な防災行動を時系列的に整理し、とりまとめる行動の計画表です。急な判断が迫られる洪水発生時に、自分自身の行動のチェックリスト、また判断のサポートツールとして役立ちます。自分の家族構成や生活環境にあった避難に必要な情報・判断・行動を把握して「わが家のマイ・タイムライン」に行動を書き込み、「自分たちの逃げ方」を確認しましょう。

警戒レベルと避難情報	避難行動チェックリスト	わが家のマイ・タイムライン
1 注意喚起(中標津町) 早期注意情報(気象庁) 台風接近 5日前～	<input type="checkbox"/> 台風予報を注意して見る。 <input type="checkbox"/> 家族全員の予定を確認する。 <input type="checkbox"/> 非常持ち出し品や備蓄品の確認をする。 <input type="checkbox"/> 薬を病院に受け取りに行く。 <input type="checkbox"/> テレビやインターネットなどで雨や川の様子に注意する。 <input type="checkbox"/> 住んでいる所と上流の雨量を調べる。 <input type="checkbox"/> 川の水位を確認する。 <input type="checkbox"/> 携帯電話を充電しておく。 <input type="checkbox"/> ハザードマップを確認する。 <input type="checkbox"/> 中標津町からの情報に注意する。	例) テレビ・ラジオ等による気象情報の確認。ハザードマップの確認。非常持ち出し品の確認。家の周囲の安全確認。 家族で話し合っておきましょう!
2 自主的広域避難情報 大雨・洪水注意報(気象庁) 台風接近 3～2日前	<input type="checkbox"/> 台風(大雨)情報を確認する。 <input type="checkbox"/> 家族や知人などと避難について話してみる。 <input type="checkbox"/> 安全な場所の親戚・知人宅への避難を依頼してみる。 <input type="checkbox"/> 避難するときの持ち出し品を準備する。 <input type="checkbox"/> 車で避難する場合は燃料を補給する。	例) テレビ・ラジオ等による気象情報の確認。ハザードマップの確認。非常持ち出し品の確認。家の周囲の安全確認。
3 高齢者等避難 台風接近 2～1日前	<input type="checkbox"/> 高齢者などの災害時要配慮者は、避難を開始する。 <input type="checkbox"/> 高齢者や障がい者、乳幼児など移動に時間がかかる方とその支援者は早めに避難を開始する。 <input type="checkbox"/> 上記以外の人も、必要に応じ、普段の行動を見合わせたり、避難の準備や自主的に避難をする。 <input type="checkbox"/> 体温測定し体調を確認する。	例) 気象情報の確認。親戚や知人に避難先を連絡する。近所の人へ声をかける。
4 避難指示 台風接近 当日	<input type="checkbox"/> 全員避難 <input type="checkbox"/> 速やかに全員避難!! <input type="checkbox"/> 近所の方へも避難の呼びかけを! <input type="checkbox"/> ガスの元栓を閉め、電気のブレーカーを落とす。	例) すぐに避難。
5 緊急安全確保	<input type="checkbox"/> 逃げ遅れたら自宅や建物の高いところに避難する。	例) 避難が困難なときは、家の中でより安全な場所(がけから離れた部屋や2階など)に移動する。

風水害・土砂災害③



避難するときは、がけ崩れや地すべり・土石流などの二次災害を考慮に入れ、足元に注意して避難しましょう。



▼ 避難行動判定フローを確認!

「避難」とは、「難」を「避ける」ことです。やみくもに避難所へ避難するのではなく、下記の判定フローを基に現状に合った避難方法を選択しましょう。

避難行動判定フロー

あなたがとるべき避難行動は?

必ず取り組みましょう!!

ハザードマップで自分の家がどこにあるか確認し、印をつけてみましょう。

●ハザードマップは浸水や土砂災害が発生するおそれの高い区域を着色した地図です。ただし、着色されていないところでも災害が起こる可能性があります。



家がある場所に色が塗られていますか?

いいえ

色が塗られていなくても、周り比べて低い土地やがけのそばなどにお住まいの方は、中標津町役場からの避難情報を参考に必要に応じて避難してください。



はい

災害の危険があるので、原則として*、自宅の外に避難が必要です。

例外

※地図上で浸水の危険があっても
 ①洪水により家屋の倒壊または崩壊してしまうおそれの高い区域の外側である。
 ②浸水する深さよりも高いところにいる。
 ③浸水しても水が引くまで我慢できる、水・食料などの備えが十分にある。
 以上の全ての条件を満たす場合は自宅に留まり安全確保(在宅避難)をすることも可能です。

ご自身または一緒に避難する方は避難に時間がかかりますか?

いいえ

はい

安全な場所に住んでいて身を寄せられる親戚や知人はいますか?

いいえ

はい

安全な場所に住んでいて身を寄せられる親戚や知人はいますか?

はい

いいえ



警戒レベル3「高齢者等避難」が発令されたら、安全な親戚や知人宅に避難しましょう。(日ごろから相談しておきましょう)



警戒レベル3「高齢者等避難」が発令されたら、中標津町役場が開設する**指定避難所**に避難しましょう。(避難所開設情報を確認しましょう)



警戒レベル4「避難指示」が発令されたら、安全な親戚や知人宅に避難しましょう。(日ごろから相談しておきましょう)



警戒レベル4「避難指示」が発令されたら、中標津町役場が開設する**指定避難所**に避難しましょう。(避難所開設情報を確認しましょう)

▼ 避難について

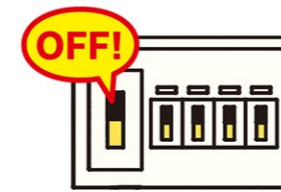
気象情報や災害情報をこまめにチェックし、できるだけ早めに避難の判断をしましょう。夜間の避難はなるべく避け、昼間のうちに避難するようにしましょう。

浸水したらすぐ外へ!



水深が約30cm前後に達すると、車のエンジンが停止する可能性があります。車が浸水した場合は、すぐに外に出ましょう。

避難する前に



ガスの元栓を閉め、電気ブレーカーを落とし火事などの二次被害を防ぎましょう。また、親戚や知人などに避難する旨を連絡しておきましょう。

2人以上で避難



できるだけ1人の避難は避けましょう。また、子どもからは目を離さないようにしましょう。

! 歩ける高さに注意!

浸水した場合、歩ける深さの目安は、ひざ下くらいまでです。水深が腰まであったり、浅くても水の流が速い場合は無理をせず、高い場所で救助を待ちましょう。



動きやすい服装で避難を!

ヘルメットや防災頭巾などで頭を保護

軍手や革手袋などで手を保護

長袖、長ズボンで

荷物は少なく、非常持ち出し品は両手があくリュックがオススメ



裸足や長靴は避け、履きなれたものを。ひもで締められる底の厚い運動靴や登山靴などが良い
 ※踏み抜き防止インソール(中敷き)を入れても良い

▼ 雷や竜巻に備える

発達した積乱雲により、雷や竜巻、集中豪雨が発生することがあります。屋外で行動する場合は、雷注意報や竜巻注意報が発令されていないかなど、事前に気象情報を確認しましょう。

雷が鳴ったら...



雷鳴が聞こえたらすぐ避難

●雷鳴が遠くても、雷雲はすぐに近づいてきます。屋外にいる場合は、安全な場所に避難しましょう。

建物の中や自動車へ避難

●建物や屋根付きの乗り物(自動車など)へ避難しましょう。
 ●雨宿りで木の下に入るのは危険です。

木や電柱から4m以上離れる

●側撃雷のおそれがあるので、木や電柱から4m以上離れてください。
 ●近くに避難する場所が無い場合は、姿勢を低くしましょう。

竜巻が起きたら...



頑丈な建物の中へ避難

●避難するときは飛ばされた看板などの飛来物に注意しましょう。
 ●避難できない場合は、物陰やくぼみに身をふせましょう。
 ●車庫・物置・プレハブ(仮設建築物)への避難は危険です。

屋内でも窓や壁から離れる

●家の中心部に近い、窓のない部屋に移動しましょう。
 ●窓やカーテンを閉めましょう。
 ●頑丈な机の下に入り、身を守りましょう。